

ホタテガイ採苗速報

付着数は西湾86,592個/袋、東湾260,432個/袋

1 ホタテガイの付着状況

5月20～25日に行った第1回全湾付着稚貝調査結果は、図1、2および表1のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は、西湾で86,592個/袋と平年値(過去10年の平均値)92,683個/袋とほぼ同じく、東湾で260,432個/袋と平年値419,692個/袋より少なくなっています。

稚貝の平均殻長は、西湾で0.87mm、東湾で0.75mmと、それぞれの平年値0.87mm、0.75mmと同じサイズとなっています。

2 キヌマトイガイ等の付着状況

キヌマトイガイの付着数は、全湾平均で67,170個/袋と平年値114,970個/袋より少なく、ムラサキイガイでは45,306個/袋と平年値43,533個/袋とほぼ同じ状況です。なお、ウミセミは全湾平均で0.2個/袋が採苗器の中に付着していました。ヒトデは見られませんでした。

3 ホタテガイラーバ等の出現状況

5月24日に陸奥湾9定点でラーバ予備調査を行った結果、ホタテガイラーバの出現数は西湾中央で145個/m³、東湾中央で964個/m³とそれぞれの前回の値281個/m³、1,927個/m³より減少しました。ヒトデのラーバは全湾で出現していません。

4 試験採苗器への付着状況

5月17～24日の7日間のホタテガイの付着数は、水産総合研究所の久栗坂実験漁場で5,952個/袋、川内実験漁場で432,128個/袋でした。

5 今後の見込み

付着数が多い採苗器は、稚貝の成長が悪くなり、稚貝採取が大幅に遅れる可能性があります。付着数にばらつきが見られるので、付着状況を十分に把握して間引きしましょう。

西湾で6月中旬、東湾で7月上旬には確実に目で見えるサイズ(殻長2～3mm)になり通常間引きができる見込みです。

付着数が数十万個と非常に多い場合は、西湾では6月上旬から、東湾ではまだホタテガイの付着が続いているため6月中旬から、目で見えるサイズ(殻長1～2mm)で「早期間引きの目安(写真)」と裏面を参考に、早期間引きを始めてください。

なお、採苗器の中にウミセミが多く、ホタテガイの付着数が少ない場合は、直ちに袋替えをしてください。その際、粗目の袋(ラッセル2分目、タマネギ袋)や穴の開いた袋は使わないようにしてください。

間引きの詳細な時期や方法については、6月7日に第1回臨時付着稚貝調査(間引き前の中層1袋)を実施し、6月10日発行予定の採苗速報第8号に情報を掲載しますので、参考にしてください。

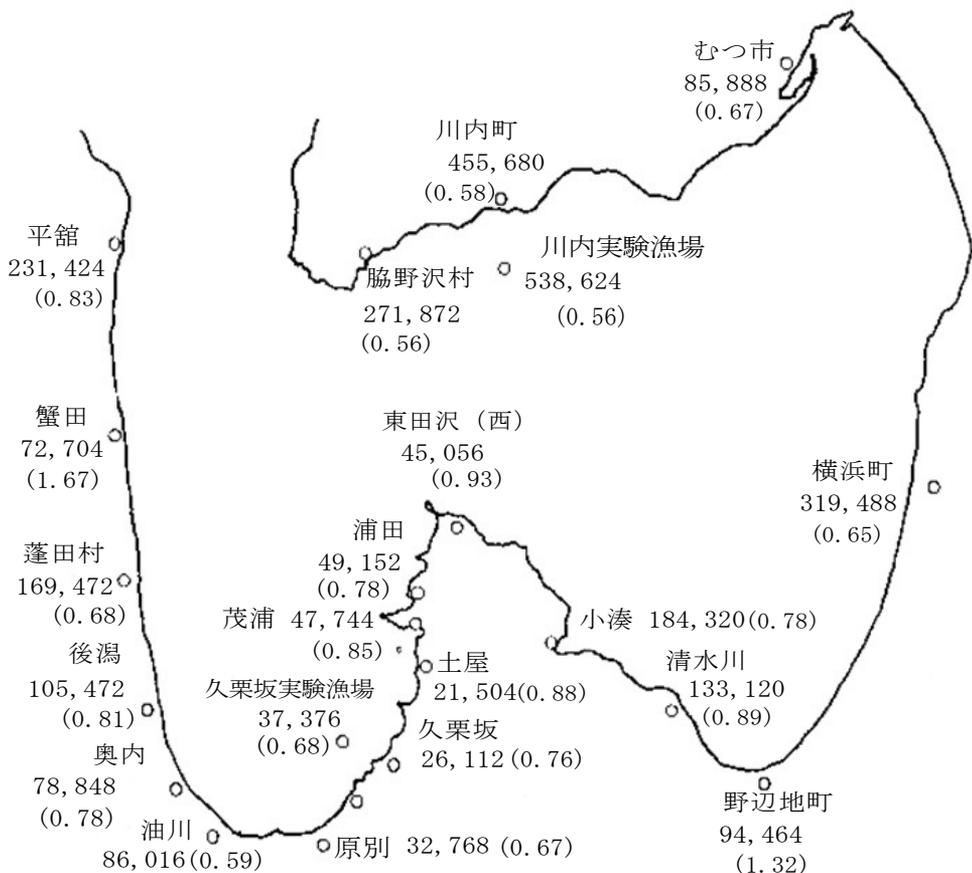


図1 漁協、支所別のホタテガイ付着数[単位:個/袋(平均殻長mm)]

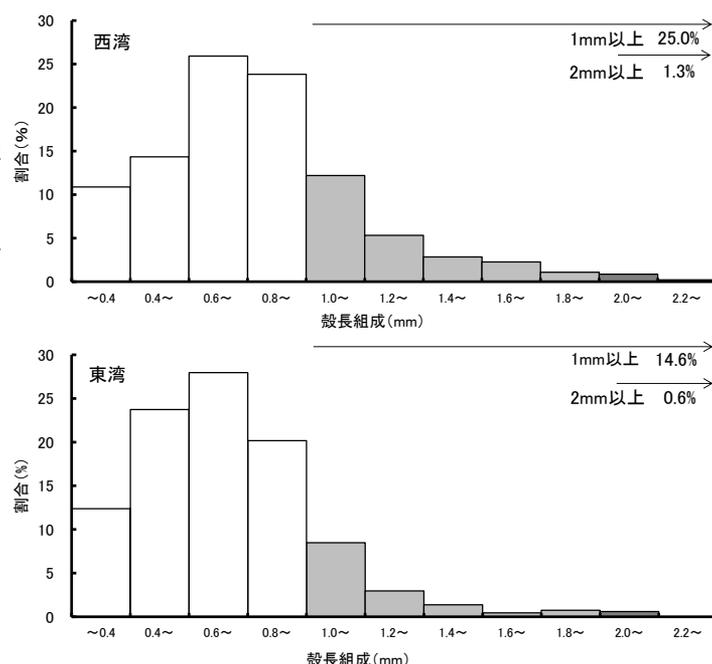


図2 ホタテガイ稚貝の殻長組成



※袋替えおよび間引き作業の注意点

- 採苗器の状況を十分に把握する（稚貝の付着数は地域、垂下水深、投入時期等によって異なる）。
- 稚貝へのショックは出来るだけ少なくする（間引きを行う場合は、流網などの付着基質を上下に振るだけにして船べり等に叩き付けない）。
- 採苗器へ残す稚貝の数を自分の目で確認しながら適正にする（2万個程度になるように）。
- 作業後は、施設を安定させる。
- ヒトデの付着が見られるときは、結び目をよく洗う。